



1枚に切り取る医療界の2週間

Medical management support by astellas

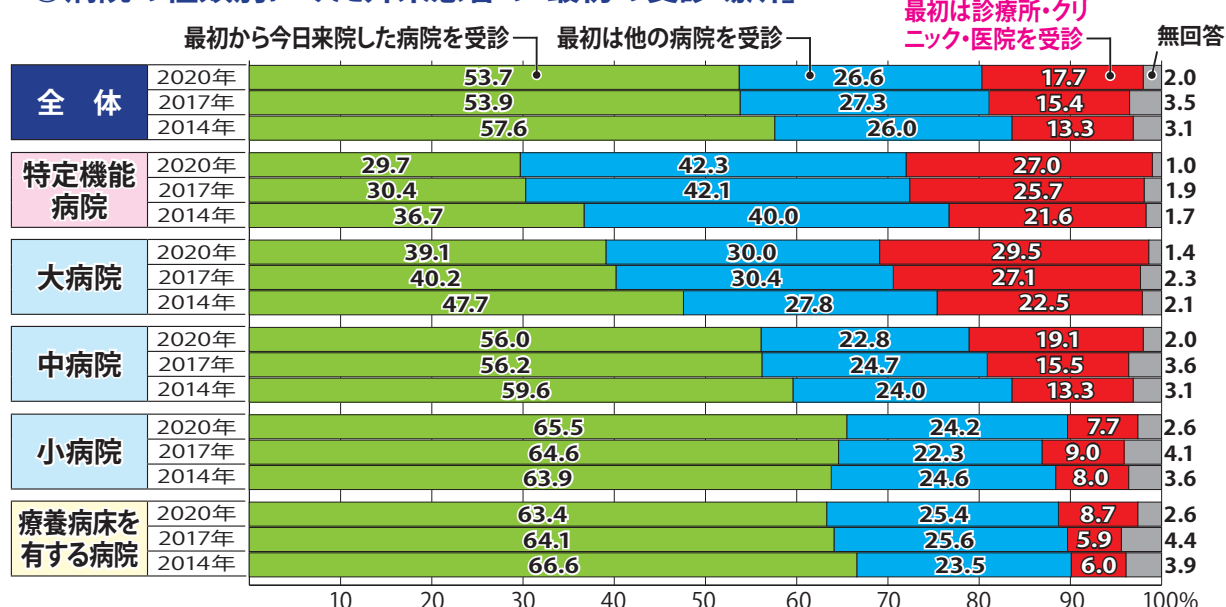
2021年9月28日号

病院の外来患者で「最初は診療所を受診」が増加傾向 ～受療行動調査の結果

《背景》厚生労働省が3年に1回、10月に行っている受療行動調査の結果から、病院の外来患者の中で、最初は診療所を受診したというケースが増えていることが分かった。

《解説》同調査は、全国の一般病院を利用する患者を対象としています。先ごろ、2020年調査の結果(概数)が公表されました。その中から、外来患者が、「今日(調査日)受診した病気や症状について最初に受診した場所」をみると、最初からその病院を受診、または最初は他の病院を受診という割合は高いものの、「最初は診療所・クリニック・医院を受診」の割合が年々増加している様子が見られました。厚生労働省は、医療連携推進策等に加え、一般向けにも、かかりつけ医を持つことなどを周知する「上手な医療のかかり方」(<https://kakarikata.mhlw.go.jp>)としたキャンペーン等を行っています。今後も、「まずは、かかりつけ医を受診」という受療行動の拡大が期待されます。

◎病院の種類別にみた外来患者の「最初の受診場所」



※病院の種類別のうち、大病院は500床以上、中病院は100床～499床、小病院は20～99床で、これらはいずれも、特定機能病院と療養病床を有する病院を除いた一般病院。

※厚生労働省の「2020年受療行動調査(概数)の概況」における結果の概要(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jyuryo/20/dl/kekka-gaiyo.pdf>)に基づき医療総研(株)加工・作成。

《発行》

アステラス製薬株式会社

東京都中央区日本橋本町2-5-1 〒103-8411

《内容についてのお問い合わせ先》

医療総研株式会社

(担当: 田中 勝志)

東京都渋谷区渋谷1-7-5 青山セブンハイツ 8F 〒151-0002

TEL. 03-6451-1617